

個々の多様性に合わせて、お互いを理解しあい、支え合うことができる地域を。そして、生まれ育った街で最期まで安心して生活できる地域を。

【グランド・コンセプト】

住まう人みなそれぞれが自分らしく暮らし、そして互いに支え合う地域づくり

【エリア名称】

函館日吉コミュニティエリア
愛称：「コンテ日吉」

方針1 住まいや医療・介護・予防・生活支援のサービスを一体的に提供できるまちづくり

- 地域包括ケアシステムの考え方に基づき、住まいや医療、介護、予防、生活支援のサービスが一体的に提供される仕組みづくりを行います。
- 健康増進、疾病の発症予防のための支援を中心に、専門家や関係機関の協力のもとで、住民と一緒に実施していきます。
- 在宅療養支援診療所を中心に、住み慣れた地域で継続した医療や介護が受けられる体制、24時間安心した生活が送れる医療や介護サービスの提供を行なっていきます。

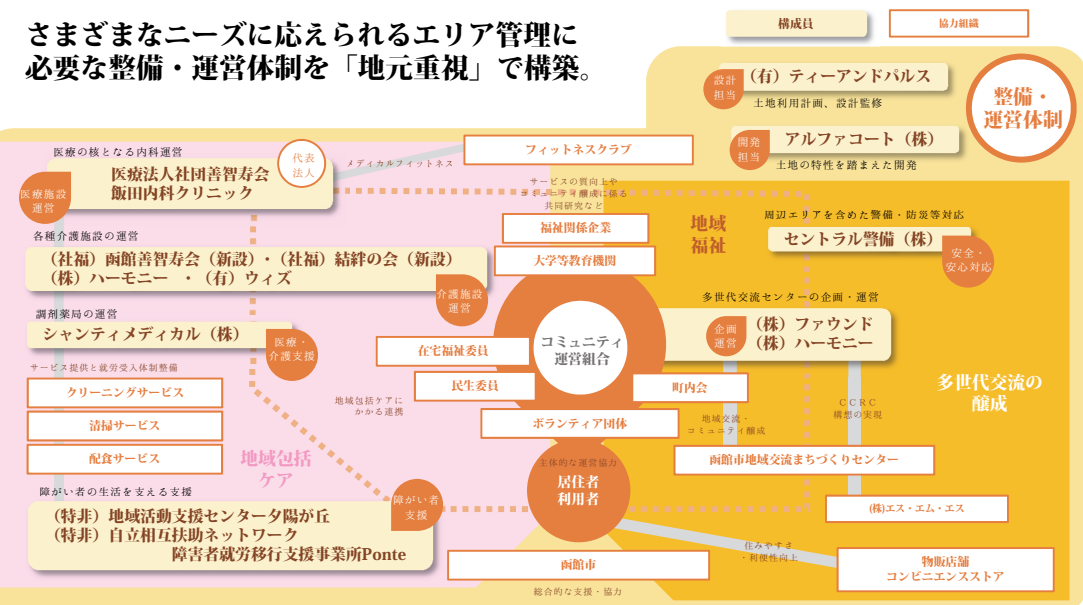
方針2 年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくり

- 子供からお年寄り、子育て世代などが自然と交流できるまちづくりを行います。
- 多世代交流施設で市民参加型の企画などを行い、高齢者、障がい者、多世代が交流できるコミュニティの形成を行います。
- 顔の見える関係性の中で防災・防犯にも取り組み、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

方針3 支え合い、みんなが活躍できるまちづくり

- 個人の特性や多様性を認め合いながら、相互に支え合い、住民が主体となって活動できるよう、環境整備と仕組の運用に取り組んでいきます。
- 各種施設の運営や様々な企画に、地域住民等に積極的に参画してもらい、住民主体の地域福祉を実践していきます。
- 地域住民、ボランティア、社会福祉法人、各事業者が地域の一員として支え合い、密接なコミュニティを構築していくための仕組みづくりを行います。

さまざまなニーズに応えられるエリア管理に必要な整備・運営体制を「地元重視」で構築。



緑豊かな中央公園を囲うように、各施設を配置。だれもが安心して、こころ豊かに過ごすことができるようバリアフリーに配慮した空間づくりを。そして、にぎわいが生まれる工夫を随所に。



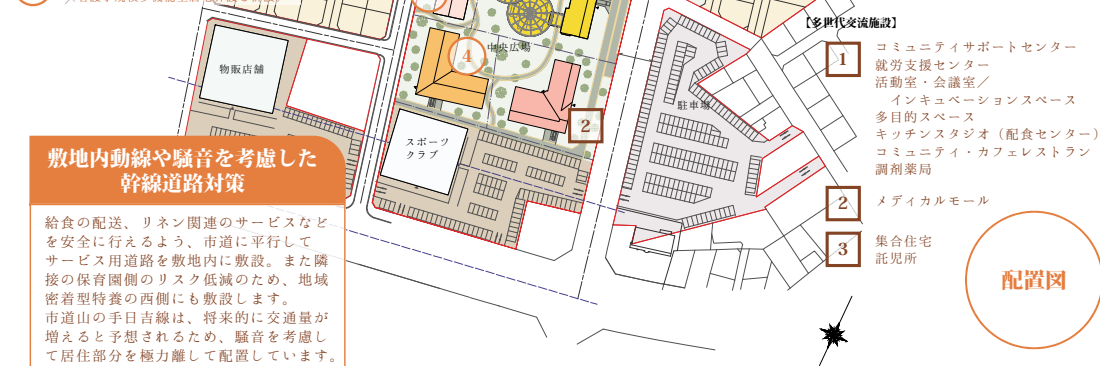
鳥瞰図

【介護施設】

- 1 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)
- 2 地域密着型介護老人福祉施設 (29人以下特別養護老人ホーム)
- 3 認知症対応型共同生活介護
- 4 地域密着型特定施設入居者生活介護
- 5 地域密着型特定施設入居者生活介護
- 6 認知症対応型共同生活介護 (看護小規模多機能型居宅介護を併設)

エリアに活気を生み出す“楽しい”遊歩道

保育園側にある街区公園と自然な繋がりを持たせる遊歩道を敷設。ストリートアスレチック器具やベンチを置き、子どもの笑い声が生まれるなかで、高齢者も一緒に適度な運動ができる空間となるよう配慮します。



配置図

住まい

- ・ライフスタイルに合わせて多様な世帯が住むことができる宅地開発。
- ・子育て世帯想定宅地は、コンパクトで購入しやすい区画に分散。
- ・高齢者想定宅地はC C R Cの体験入居受入の拠点に。

ターゲット	住戸数・人口等	一般的な区画面積及び分譲価格帯
子育て世帯 高齢世帯	宅地エリア 84区画、250人 福祉エリア 14戸、24人	区画面積 180㎡ 分譲価格 520万円台

道路・公園・その他

- ・エリア内の憩いの場となる中央公園を中心部に配置し、公園内と外部との動線を確保します。
- ・配食サービスやリネンサービスなど、介護施設に不可欠なサービスが円滑に行えるよう、エリア外周にサービス用道路を敷設します。

- ①中央公園 ②遊歩道 ③ストリートアスレチック器具 ④エリア内サービス用道路

地域包括ケアシステムを構築するために展開するソフト事業

誰もが同じ地域で、安心して長く生き生きと暮らすための多様なサービスを提供

- ・365日、24時間体制の医療・看護サービス提供を実現
- ・在宅を基本としつつ、状況やニーズに合わせた介護施設を活用し、住み替えによる同一地域居住を実現
- ・施設や地域の情報を一元管理し、適切なケア・対応につなげる体制を整備
- ・医療施設や隣接するフィットネスクラブと連携し、健康増進にかかる様々なメニューを提供
- ・ボランティア養成を進め、様々な場面でサポートしてもらい、地域一体で住み良い地域づくりを推進

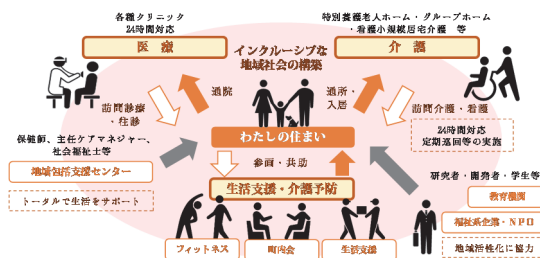
世代や特性を越えた多様な交流が生まれる企画を実施

- ・多目的スペースなどを活用し、エリア内外の方に向け集客交流を目的としたイベント等を開始
- ・障がいや認知症その他、様々な特性に対する理解を促し、皆で支え合っていくための場を創出
- ・子どもや学生などが集まる機会を積極的に創出し、誰もがエリア内を活性化

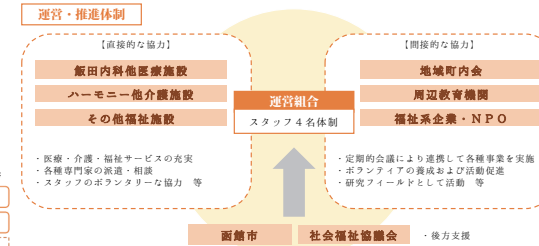
多世代交流施設を拠点として、多様な人材を運営組合がコーディネート

- ・多世代交流施設をコミュニティの中核として、エリア内の多様な施設を効果的に活用
- ・専門性のある人材やボランティアなどを、情報発信センタースタッフが適切にコーディネート

【包括ケアシステムのイメージ】



【ソフト事業の運営・推進体制・運営資金確保方策】



多世代交流施設

【名称】交流センター「コンテ日吉」

- ①地域コミュニティの拠点（集う場所としての機能）
会議室やイベントスペースのほか、飲食スペースなども設置し、エリア内外の人が出入りするコミュニティの拠点として整備します。
- ②地域社会のコーディネート（交流を生み出す企画・運営機能）
ボランティア育成のほか、周辺地域の方も含めて楽しく過ごせるイベントなどを企画・運営し、エリアの人的交流を活性化させます。
- ③地域福祉コンシェルジュ（専門アドバイザーとしての機能）
福祉の専門アドバイザーとして多様な福祉相談に対応します。関連組織と連携しながら、ワンストップで対応する窓口となります。
- ④高齢者、障がい者就労、ボランティア受入窓口（生きがい創出機能）
就労支援センター機能を併設し、高齢者や障がい者の就労支援や、健常者の福祉ボランティアの斡旋などを行います。

子育て世代が安心して暮らせるよう、託児スペースや託児所などを設置します。また、隣接する「函館福ちゃん保育園」と連携・協力し、多世代交流施設等を活用しながら、エリア内の高齢者や障がい者との交流などを図ります。

【施設の内容】

コミュニティ運営組合による自主運営

- ①コミュニティサポートセンター
- ②就労支援センター
- ③活動室・会議室
／インキュベーションスペース
- ④多目的スペース

他事業者と連携して運営

- ⑤キッチンスタジオ（給食センター）
- ⑥コミュニティ・カフェレストラン

テナントとして誘致

- ⑦クリニック／調剤薬局

- ①託児スペースの設置
- ②学童保育所
- ③子どもの地域活動の実施

医療・介護・障害・福祉サービスなどの施設

・健康増進的な視点も含め、多様な世代が日頃から健康を保つのに必要な医療サービスを提供できる施設を設置します。
・24時間体制で往診できる体制を構築します。また、訪問看護や薬局による在宅医療支援なども提供し、「いつでも」「どこでも」適切な医療サービスを提供します。

- ①内科クリニック（飯田内科クリニック）
- ②小児科クリニック（誘致予定）
- ③歯科・眼科クリニック（誘致予定）
- ④調剤薬局（シャンティメディカル）
- ⑤フィットネスクラブ（飯田内科クリニック）

【入居相談への適切な対応・エリアとの関わり方】

- 広域での地域福祉コンシェルジュ対応
- 地域社会の福祉コーディネート機能による連携・共助

- ①障がい者就労移行支援（自立相互扶助ネットワーク）
- ②一般就労支援およびボランティア養成・斡旋（運営組合）

医療

介護

その他

健康づくり・介護予防・生活支援サービスなどの施設

- ・高齢で身体が不自由な方や、家事・育児・仕事に手一杯な方など、生活の中で何らかの手助けがほしい方に、多様な生活支援サービスが提供される環境整備に努めます。
- ・管理栄養士やレストランシェフなどが中心となってメニューを考案し、地域の人たちに「美味しい」そして「健康な」食を提供します。
- ・健康運動指導士や理学療法士の指導のもと、日々の運動・身体活動を積極的に促して、地域住民の健康増進を推進します。

- ①家事・自費介護サービス（拠点は未定）
- ②配食・宅配・レストランサービス（キッチンスタジオ／コミュニティ・カフェレストラン）
- ③フィットネス等身体活動促進サービス（フィットネスクラブ）

生活利便施設

- ・日常的な買い物ができる施設を誘致するなど、利便性が高まるよう配慮します。
- ・「はたらく」ことを通じて生きる喜びを感じてもらえるよう、高齢者や障がい者の就労支援と連動し、雇用の受け皿となりうる施設を積極的に誘致します。

- ①物販店舗 ②コンビニエンスストア ③クリーニング ④セキユリティ会社 ⑤清掃会社

生涯活躍のまち（日本版C C R C）構想の取組

【基本的な考え方（共通必須項目・選択項目）】

	共通必須項目	選択項目
入居者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ①入居希望の募集場所 地域福祉コンシェルジュが丁寧に対応。 ②入居者の健康状態 健康な段階からの入居を基本としつつ、どのような方も柔軟に受入をします。 ③入居者の年齢 住み替え、エリア内就労などを想定し、50代以上を中心に幅広く受入。 	<ul style="list-style-type: none"> ①入居希望の住み替え形態 「広域移住型」を想定します。 ②入居者の所得等 一般的な退職者を基本とします。 ③入居者の属性 北海道居住に慣れを持ち、かつ郡部的な利便性もある程度必要と考え郡内への引越、観光的な価値も含めて、当該エリアでの暮らしをアピールします。
立地・居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ①地域社会・交流・広域 交流センターを中心に多くの事業を実施。 ②自立した生活ができる居住環境 住宅・就労・生きがいづくりを兼ね備え、医療・介護体制の完備。 ③生活全般のコーディネート センターを中心に、スタッフ、ボランティアが地域での居住をサポート。 	<ul style="list-style-type: none"> ④立地 「小さな憩い」となります ⑤地域の広がり 「タウン型」を想定します。 ⑥地域資源の活用 隣接する運動公園の活用や大学との連携などを積極的「展開」します。
サービス提供	<ul style="list-style-type: none"> ⑦移住支援者への支援 コーディネーターによるマッチング、体験入居企画などを展開 ⑧健康でアクティブな生活の支援 シニアライフプランの作成支援などにより、生活満足度を高めます。 ⑨「継続的ケア」の提供 多様な医療・介護・福祉体制により人生の最終段階まで確かなケアを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩住み替えサービス エリア内に多様な居住形態を用意することで、ニーズに合ったほか、エリア内の引越しなどの際に地域の「お助け隊」などがサポートします。 ⑪就労・社会参加支援サービス等 コミュニティサポートセンター内で地域内での一般就労支援を展開するほか、ボランティア育成にも取り組む、地域で生き生きと暮らすための支援を行います。
事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ⑫入居者の事業への参加 エリア運営にあたっては、居住者が主体的に関われるよう仕組みを構築します。 ⑬事業運営やケア関係の情報公開 地域コンシェルジュ機能で、周辺情報も含めて一元管理・提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑭多様な事業主体の参画 それぞれに得意分野を持つ多様な事業主体が連携してエリア運営にあたります。市内の地域交流におけるコアネットワーク機能を果たしている函館市地域交流コンシェルジュ機能で、周辺情報も含め、広がりのある事業運営を行います。

【KPIの設定】

KPI	当該エリアへの首都圏からの視察人数 (体験ツアー含む含む人数)	移住者数 (市外からの転居者数)	シニアライフプランの作成数
当面の目標値	20人 (平成31年度実績)	50人 (平成31年度実績)	30件 (平成31年度実績)

【移住促進に向けた具体的取組】

STEP1 知ってもらう

最初のステップとして、このエリアで実現可能なシニアの暮らし方をわかりやすく伝えるホームページや冊子などを作成し、函館市や函館市地域交流まちづくりセンター、北海道などと連携しながら、外部に発信していきます。

STEP2 来てもらう

高齢社会に適した様々な情報サービスを運営する株式会社エス・エム・エスや、函館市地域交流まちづくりセンターなどと連携して、当該エリアの紹介や移住促進に向けた取り組みを積極的に展開していきます。また、函館の高いブランド力を活用し、観光を兼ねた「移住体験ツアー」を企画し、エリア内に数日滞在してもらい、周辺施設の状況や体制についての説明などを受けながら、定住をイメージしてもらいような取組も検討していきます。

STEP3 活躍してもらう

移住・居住をされた方、あるいはしたいと考えている方に対し、スタッフがヒアリングを行いながら、本人の考える希望や期待、健康状態や嗜好などを踏まえ、「シニアライフプラン」を作成し、目標と計画を持って当該地域で生活できるよう、アドバイザーやサポートを行うことができる体制を構築します。